

第39回 **BACH** スクリーンコンサート

2024. 12月

今月のテーマ **世界の国々の第2国歌と言われる名曲**

世界の国々にはその国の国歌とともに親しまれている名曲があります。

代表的なところでは、イタリアの『行け、我が想いよ、金色の翼に乗って』、フィンランドの『フィンランディア（フィンランド讃歌）』、そして英国の『威風堂々（希望と栄光の国）』といった作品があります。

ほとんどが普段耳にしている曲で、その国の国歌を知らなくても、この曲を聴けばその国を思い出すほど、国を代表する曲だとも言えます。

**1、チェコ スメタナ 我が祖国よりモルダウ**

この曲は「わが祖国」という作品の中の一曲で、チェコの独立運動の支えとなった。チェコの母なるブルタバ川（モルダウ）。小さな源流がやがて大きな流れになり…

2、フィンランド シベリウス 交響詩フィンランディア

長い苦難の歴史を刻んだフィンランドの独立運動を支えた曲。人々を勇気づけたこの曲は、心に響（ひび）く。

北欧フィンランドには長い苦難の歴史がある。750年間スウェーデンやロシアに支配され独立したのは1917年。その独立運動を支えた曲がフィンランディアである。

3、ハンガリー ベルリオーズ ラコッツィ行進曲

ハンガリーに古くから伝わる民族的な行進曲で、「ラーコーツィの独立戦争」の指導者であるラコッツィー・フェレンツ2世という貴族の名前に由来しています。

ハンガリーは長い支配と独立の動きに身を投じることになりますが、それでも彼はハンガリーの国民的英雄とされています。

4、北アイルランド 民謡不明 ロンドンデリー

アイルランドの民謡で、一般的にはダニボーイとして知られています。イギリス領北アイルランドでは事実上の国歌としての扱いを受け、アイルランド移民の間でも人気が高い。世界で最も広く親しまれるアイルランド民謡の一つです。

5、オーストラリア オーストラリア民謡 ワルチング・マチルダ

オーストラリア国歌として採用されることが提案されたほど国民に愛された曲。

内容は仕事を求めて放浪する労働者、スワッグマンの冒険（「ウォルシング・マティルダ」は棒の先に荷物（スワッグ=マティルダ）を結びつけて運ぶことを意味する）の物語です。

6、イタリア ヴェルディ 歌劇ナブッコから行け我が思いよ翼に乗って

正式なイタリア国歌でもないし、イタリアのことを歌っているわけではないのに、イタリア人が愛してやまない心の国歌とも言える勇ましくも切ないメロディです。

7、オーストリア ヨハンシュトラウス 美しく青くドナウ

オーストリアのワルツ王こと息子の、ヨハン・シュトラウス 2 世の作曲です。

美しく青くドナウは「ワルツ形式の男性合唱曲を」という依頼で合唱団の指揮者により行われたが、あまり人気がなかった。ところが当時のパリ万博でオーケストラ・パートだけを演奏したらパリで爆発的な人気を呼び、これがウィーンに逆輸入され人気とともにオーケストラ版が定着することになった。

8、アメリカ スーザー 星条旗よ永遠なれ

言わずと知れた元アメリカ海兵隊音楽隊隊長のジョン・フィリップ・スーザが作曲した行進曲です。

国家独唱などで米国国家を聞くが、星条旗よ永遠なれが米国国歌と勘違いしてしまうほど聞く機会が多いのでは無いでしょうか。

9、イギリス エルガー 希望と栄光の国

イギリスの愛国歌のひとつ、エルガーの行進曲『威風堂々』第 1 番は、この曲を聴いて感激した国王エドワード 7 世の提案によって中間部の旋律に歌詞がつけられ、『希望と栄光の国』という名で歌われるようになったのがきっかけです。

10、欧州連合（EU） ベートーベン 第9歓喜の歌

国歌はそれぞれの国に存在するが、「欧州の歌」として EU（欧州連合）に採用されて演奏されます。

自由を高らかに歌い上げているベートーヴェンの「第九」は。欧州の発展と自由の獲得と戦争を無くす理念のために演奏されるものとしては相応しい音楽であると言えます、